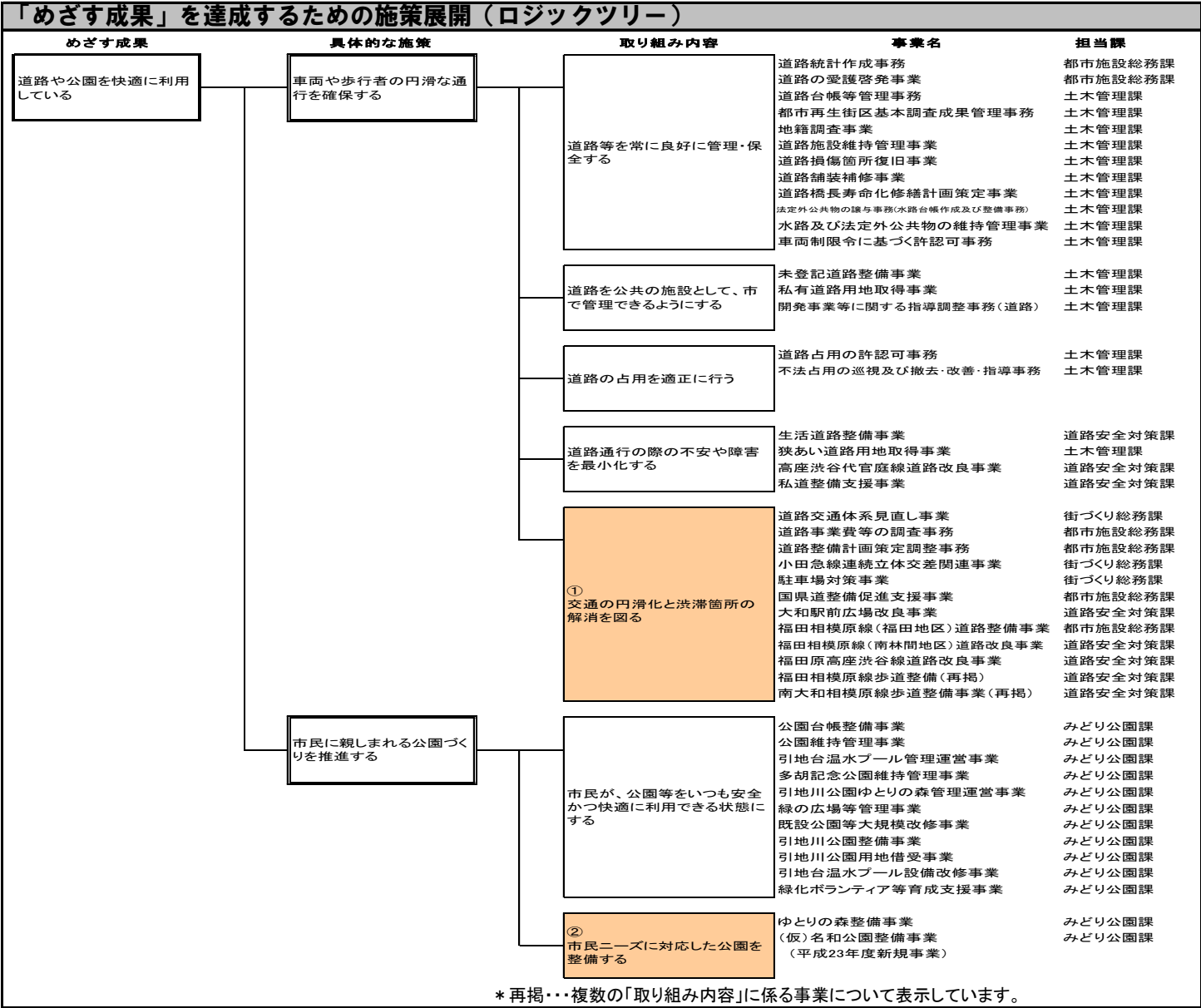


「めざす成果」の達成に向けた進行管理シート		
5－1－2 道路や公園を快適に利用している		
総合計画体系	健康領域・基本目標	まちの健康・快適な都市空間が整うまち
	個別目標	快適な都市の基盤をつくる
	めざす成果	道路や公園を快適に利用している
		道路や公園の都市基盤が整い、市民が快適に利用しています。



総合計画掲載指標①		総合計画掲載指標②	
都市計画道路の整備率		市民1人当たりの都市公園面積	
計画策定時 現状値	61. 2%	計画策定時 現状値	1. 69㎡
実績値 （H22）	62. 8%	実績値 （H22）	2. 04㎡
中間目標値 （H23）	62. 0%	中間目標値 （H23）	2. 17㎡
目標値 （H25）	62. 9%	目標値 （H25）	2. 30㎡

「めざす成果」の達成に向けた進行管理シート	
主な取り組み内容	【車両や歩行者の円滑な通行を確保する】 ・桜ヶ丘1号踏切に起因する渋滞解消を目的とする道路と鉄道との交差手法について、県と協働で検討するとともに、専門家で構成された「桜ヶ丘地区まちづくり検討委員会」、地元住民との「意見交換会」、無作為抽出の市民や地元自治会等で構成された「市民討議会」による議論を踏まえ、同検討委員会から神奈川県へ提出される「桜ヶ丘地区交通まちづくり検討調査」の提言書の作成に係る調整及び協議を行いました。 ・国、県道の拡幅整備支援や市道の拡幅整備を行うことにより、渋滞解消ならびに道路利用者の交通の円滑化を図りました。
	【市民に親しまれる公園づくりを推進する】 ・ゆとりの森は平成21年7月に修景池ゾーンがオープンし、公園利用者が増加しています。そのため、平成22年度には管理の充実、市民サービスの充実を図ること、また、災害時の防災の拠点としての機能を重視した、センター施設棟及びその周辺の整備に着手しました。

構成事業に対する考え方（事業の量及び実施手法）	・桜ヶ丘地区まちづくり検討委員会では、平成23年度に、神奈川県に対し検討結果を提言する予定であり、その提言内容を踏まえ、桜ヶ丘1号踏切に起因する渋滞解消に向け、県、市、地域がそれぞれ連携していくことが必要です。 ・橋梁の老朽化が今後急速に進行する状況を踏まえ、更新時期の平準化や修繕方法等を定めた橋梁の長寿命化修繕計画を策定し、トータルコスト縮減と維持管理の効率化を図ります。 ・市道や開発道路等の移管に伴い発生する道路台帳平面図や調書の修正を逐次行い、最新情報の提供します。 ・ゆとりの森は市民のスポーツとレクリエーションの場としての整備はもちろんのこと、市民に親しまれる公園としての整備を目指すとともに、周辺の環境や施設との連携を図るため、高座渋谷駅及び千本桜とのさくらのネットワークを考慮する必要があります。また、事業実施にあたっては、防衛省の「厚木航空基地周辺まちづくり支援助成事業補助金」及び県の「地域づくり振興等補助金」を活用していきます。 ・交通の円滑化や交通渋滞の緩和等を図るため、南大和相模原線歩道整備事業や福田相模原線及び南林間座間線の舗装補修工事について、国土交通省の補助金制度等を活用した整備を行います。
-------------------------	--

今後の展開方針		
注）、例年どおりの事業展開を予定している事務事業については、特段の記載をしていません。		
新規事業の立案		（該当する事務事業）
既存事業の拡充	・南大和相模原線の調査設計・福田相模原線及び南林間座間線の舗装補修工事を行います。 ・老朽化する橋梁に係る経費の縮減を図るため、予防的及び計画的な長寿命化修繕計画を策定します。	（該当する事務事業） 道路舗装補修事業 道路橋長寿命化修繕計画策定事業
事業の廃止・縮減	・平成23年度に事業が完了します。	（該当する事務事業） 福田原高座渋谷線道路改良事業
事業の効率化	・整備工事においては、より安価で耐久性を考慮した品質のよい材料を採用していきます。	（該当する事務事業） ゆとりの森整備事業
その他見直し	・南大和相模原線歩道整備工事を前倒しして実施し、投資効果を高めます。 ・ゆとりの森の芝生グラウンド及び修景池ゾーンに係る指定管理については、効率的な一体管理を行っていきます。	（該当する事務事業） 南大和相模原線歩道整備事業 引地川公園ゆとりの森管理運営事業

施策への提言	
総合計画審議会記入欄	・都市公園法の改正に対応し、現在、作成している都市公園台帳を活用し、公園の遊具等の計画的な更新に努めてください。また、地域住民の年齢層の変化により、公園の利用形態に変化が見られるため、公園のリニューアルについてはニーズに合わせた配慮が必要と考えます。 ・公園施設等の指定管理にあたっては、行政サービスの代行者として役割を果たしているかどうかのチェックの他、利用者の声を聞くなどモニタリングを行うことが必要と考えます。